

## 教育研究所

## 1. 異動と構成人員（1999年4月1日～2000年3月31日）

1999年度より前所長千葉杲弘教授が大学院教授に就任したことに伴い、ジョン C. マーハ教授が新所長に就任した。また、向井敦子講師が1998年度をもってICUを退職された。

本研究所は現在、所員19名、研究員33名、助手3名により構成される。

## (1) 所員（専門分野）

千葉杲弘	CHIBA Akihiro	教授、教育学
立川 明	TACHIKAWA Akira	教授、教育学
林 昭道	HAYASHI Akimichi	準教授、教育学
町田 健一	MACHIDA Kenichi	準教授、教育学
李 麻芝	Ma - Ji RHEE	準教授、教育学
小谷 英文	KOTANI Hidefumi	教授、心理学
栗山 容子	KURIYAMA Yoko	教授、心理学
磯崎 三喜年	ISOZAKI Mikitoshi	準教授、心理学
デイヴィッド W. ラッカム	David W. RACKHAM	準教授、心理学
笹尾 敏明	SASAO Toshiaki	準教授、心理学
阿久津 喜弘	AKUTSU Yoshihiro	教授、教育工学・コミュニケーション
石本 菅生	ISHIMOTO Sugao	教授、教育工学・コミュニケーション
中野 照海	NAKANO Terumi	教授、教育工学・コミュニケーション
王 淑英	WONG Suk-Ying	準教授、教育工学・コミュニケーション
ジョン C. マーハ	John C. MAHER	教授、英語教育
ランドルフ H. スラッシャー	Randolph H. THRASHER	教授、英語教育
ピーター B. マックヤグ	Peter B. MCCAGG	教授、英語教育
ティモシー J. ライネイ	Timothy J. RINEY	教授、英語教育

## (2) 研究員 I - Research Fellows (勤務先または最終学歴／研究課題／保証人)

- 1) 深谷 潤 平安女学院短期大学保育科 助教授
  1. カール・ヤスパースの教育哲学研究
  2. キリスト教教育の哲学的考察
 千葉 泉弘 教授
- 2) 石井 由里 山口大学教育学部 講師
 

女子のセルフエスティームと教育に関する比較研究

 千葉 泉弘 教授
- 3) 影山 礼子 国際武道大学共通教育科 教授
 

キリスト教女子教育史

 千葉 泉弘 教授
- 4) 金 泰勲 清州基督教青年会付設 青少年文化研究所
 

国際理解教育

 千葉 泉弘 教授
- 5) 鬼頭 當子 MK 図書館研究所
 

古典籍の保存管理についての実態調査  
—中国の例：北京大学図書館、北京図書館、上海中医药大学図書館)

 千葉 泉弘 教授
- 6) 小林 和恵 (財) 日本国際協力センター 研究員
 

教育分野における国際協力

 千葉 泉弘 教授
- 7) 永田 佳之 国立教育研究所
  1. 国際教育
  2. 国際理解教育
  3. 国際教育援助・協力
 千葉 泉弘 教授
- 8) 渡部 淳 国際基督教大学高等学校 公民科教諭
  1. 日本における国際理解教育の展開とその教育史的意義
  2. 社会科教育における教育方法の国際比較
 千葉 泉弘 教授
- 9) 吉岡 良昌 東洋英和女学院大学人間科学部 助教授
 

キリスト教教育

- 立川 明 教授
- 10) 雨宮 基博 大月市立下和田小学校 教諭  
学級集団への集団精神療法の適用  
小谷 英文 教授
- 11) 権藤 桂子 立教女学院短期大学 助教授  
1. Early Childhood Development  
2. Language Development  
磯崎 三喜年 教授
- 12) 川津 茂生 国際武道大学 教授  
On the foundation of cognitive science  
栗山 容子 教授
- 13) 大井 直子 東京成徳大学非常勤講師・国際基督教大学教育心理学 非常勤副手  
1. 価値観  
2. 生涯発達  
3. 青年期の親子関係  
栗山 容子 教授
- 14) 苫米地憲昭 国際基督教大学カウンセリングセンター  
悲嘆の心理について  
青井 明 教授
- 15) 来嶋 洋美 国際交流基金日本語国際センター  
日本語教育における学習支援システムの設計開発と評価  
石本 菅生 教授
- 16) 富永由美子 リオデジャネイロ連邦大学文学部 助教授  
日本語教育における視聴覚教育  
中野 照海 教授
- 17) 海後 宗男 明海大学外国語学部英米語学科 専任講師  
マス・コミュニケーションの受け手のにおける認知過程  
阿久津喜弘 教授
- 18) 松田 憲 亜細亜大学教養部 講師  
第二言語読解過程の研究  
ランドルフ H. スラッシャー 教授
- 19) 中村 優治 東京経済大学経営学部 教授

1. Assessing Oral Proficiency
2. Application of IRT to a Speaking Test

ランドルフ H. スラッシャー 教授

- 20) 篠原 和子 東京農工大学工学部 専任講師

1. Cognitive Linguistics
2. Study of Metaphor

ピーター B. マッキャグ 教授

- 21) 臼井直人 愛国学園大学 専任講師

1. Communication Studies
2. Communication Education
3. Rhetoric and Argumentation

ジョン C. マーハ 教授

### (3) 研究員 II Research Associates

- 1) 上別府隆男 Ph. D, Candidate, College of Education, University of Maryland, College Park

1. 比較・国際教育
2. 教育援助政策

千葉 泉弘 教授

- 2) 小島 文英 国際協力事業団技術協力 専門家

開発と教育

千葉 泉弘 教授

- 3) 原 和子 お茶の水大学理学部物理化学化卒業

異文化体験のライフコース分析（「帰国子女」の追跡調査）

栗山 容子 教授

- 4) 服部純子 南カリフォルニア大学院 Ph. D.

文化とパーソナリティ

栗山 容子 教授

- 5) 荻原美文 府中市教育相談室 心理相談員

発達心理学

栗山 容子 教授

- 6) 斉藤 哲 ピジョン株式会社 常総研究所 生活発達研究グループ

乳児の言語発達（原初的コミュニケーション、音声知覚）

- デイヴィッド W. ラッカム 教授
- 7) 宮崎 美里 国際基督教大学教育学修士 (心理学)  
境界例に対する精神分析的集団療法における攻撃性の徹底捜査  
小谷 英文 教授
- 8) 上ノ原太寿 品川区教育相談センター  
サイコセラピーにおける治療的变化について  
小谷 英文 教授
- 9) 三河内 彰子 国際基督教大学教育学修士 (視聴覚教育)  
Education at communities using multimedia softwares  
中野 照海 教授
- 10) 山王丸浩子 国際協力事業団沖縄国際センター 視聴覚技術室インストラクター  
マルチメディア教材の開発と利用  
中野 照海 教授
- 11) 鈴木 貴士 国際基督教大学教育学修士 (視聴覚教育)  
語学教育における CAI の利用、および CAI 教材の開発  
石本 菅生 教授
- 12) 朴 貞姫 東北朝鮮族教材開発研究センター  
日本語教育  
飛田 良文 教授
- 13) 大川多美子 清真学園女子大学短期大学英語科 非常勤講師  
1. 社会言語学  
2. 英語教育  
ジョン C. マーハ 教授

## (4) 助手

- 大川 多美子 (1998 年 4 月～) 国際基督教大学教育学修士 英語教育  
宇田川 洋子 (1998 年 10 月～) 国際基督教大学教育学修士 英語教育  
村瀬 泰信 (1999 年 4 月～) 国際基督教大学大学院教育学研究科博士後期課程  
教育哲学

## 2. 活動報告（1998年9月1日～1999年8月31日）

### (1) 講演会

1998年11月10日 於：ICU教育学科会議室

第2回所員研究発表

「感情の流れーコミュニケーションの第3の流れ」

阿久津 喜弘 教授（ICU視聴覚研究室）

1999年2月16日 於：ICU教育学科会議室

第3回所員研究発表

「障害に学ぶ」

向井 敦子 講師（ICU心理学研究室）

1999年6月1日 於：ICU本館-213

1999年度第1回公開講演会

「東京における外国人児童生徒の日本語教育の実状」

谷口理恵先生（練馬教育委員会日本語講師）

1999年6月10日 於：ICU第二教育研究棟-301

1999年度第2回公開講演会

“Education, Culture, and Language in Israel”

Prof. John Myhill (University of Haifa, Israel)

Prof. Yoshimi Miyake-Loh

## II. 所員・研究員活動報告

### <教育哲学研究室／Department of Educational Philosophy>

千葉 泉弘 教授

#### I. 研究活動／Research Activities

国際理解教育

識字教育、生涯教育、Education for All

アジア・アフリカの教育発展

開発と教育、教育分野の国際交流・援助、教育計画、教育改革

大学改革、入試制度

ユネスコ関連事項

## II. 著作／Publications

### i) 研究論文／Research Articles

1. Basic education: Its evolution and lessons learned
2. Basic education: Best practices and lessons learned (1 と 2 は国際開発学会ハイレベルセミナーにて発表)
3. 新たな教養教育の創出を目指して 京都大学共同研究
4. International trends and perspectives of education for international understanding
5. 国際理解教育の世界的動向と展望  
(4 と 5 は日本国際理解教育学会主催アジア太平洋地域国際理解教育会議への提出論文 1999年1月 日本語 同報告書 pp 98-108 英文 pp 117-127)
6. アジア太平洋地域国際理解教育会議の成果 日本国際理解教育学会紀要  
「国際理解教育」第5巻 pp 122 - 131 1999年6月
7. Private initiatives in the provision of learning opportunities; Some examples from Japan アジア開発銀行研究所主催ワークショップにて発表 (1999年7月)
8. "Issues related to the development of higher education in the age of globalization and internationalization in the 21st century" International Educational Forum, 1999 Changchun International Educational Exhibition, Changchun, China 1999年8月

### III. 学会発表・参加／Conference Presentations

1. Unesco's Advisory Committee on Education for Peace, Human Rights, Democracy, International Understanding and tolerance 出席 (1998年9月21 - 23日 パリユネスコ本部)
2. 国際開発学会 開発協力ハイレベルセミナー (Sustainable Human Development and Human Security) パネル討議発題者 (1998年10月22日 国連大学)
3. 日本国際理解教育学会 アジア太平洋地域国際理解教育会議 開催責任者並びに論文発表と司会 (1999年1月20 - 23日 東京オリンピックセンター)

4. Unesco's First International Panel Meeting on Culture of Peace 1999年3月5日  
パリユネスコ本部)
5. 日本国際理解教育学会 1999年度年次大会 パネルディスカッションにて発表 「国際理解教育における国の概念について 国連機関の立場から」(1999年6月12日)
6. Asian Development Bank Institute Workshop on Public Private Partnerships in the Social Sector 論文発表と分科会司会 (1999年7月4-8日)
7. 日本国際理解教育学会 主催 国際理解教育スタディツアー ユネスコ本部とドイツ  
1999年8月5-15日

#### IV. 学会、研究団体等での役職／Professional Activities

1. 日本ユネスコ国内委員会委員  
普及小委員会委員長  
APEID-APPEAL 分科会主査
2. 日本国際理解教育学会 常任理事 国際委員会委員長
3. ユネスコ平和人権民主主義国際理解寛容教育諮問委員会委員
4. ユネスコ平和の文化国際パネル委員
5. アジア太平洋地域国際教育価値教育ネットワーク (APNIEVE)、事業担当副会長
6. 国際協力事業団 (JICA) WID 懇談会委員
7. 同上 西アフリカ支援委員会委員 (教育、人的資源開発)
8. ユネスコアジア文化センター (ACCU) アジア太平洋地域識字協力事業委員会委員長
9. 野村生涯教育センター顧問
10. 帝塚山学院大学国際理解教育研究所客員教授
11. 中国吉林省ユネスコ協会顧問、同北国書画社高級顧問
12. 中国邯鄲市国際交流特別顧問

#### V. その他／Others

##### i) 講演／Lectures

1. YMCA 山手センター アジアの教育 1998年10月10日
2. JICA フランス語圏アフリカ婦人と開発指導者研修「女性と識字」1998年10月30日
3. 学習院女子高等学校 「識字と世界寺子屋運動」 1999年5月28日
4. 外務省派遣文化人講演 National will and educational development: Japan's experience  
Accra, Ghana 1999年7月16日



Harare, Zimbabwe 1999年7月19日

Dar es Salaam, Tanzania 1999年7月22日

Morogoro, Tanzania 1999年7月23日

5. 国立婦人教育会館 識字と女性 1999年7月30日

6. ICU教育セミナー 初期のICU 1999年8月4日

### iii) 委員会等/Committees

ユネスコ関係

日本ユネスコ国内委員会

運営委員会 1998年9月28日

普及委員会 1999年2月5日

総会 1999年2月22日

教育委員会 1999年7月7日

普及委員会 1999年7月12日

ACCU

識字協力事業委員会 1999年6月24日

## 立川 明 教授

### I. 研究活動/Research Activities

科研費研究（基盤研究 B）「多元文化社会アメリカにおけるオートノミーとコントロールに関する史的研究」（研究代表者羽田積男）の最終年を迎えて、世紀転換期の合衆国におけるカレッジと大学に関する論文を執筆している。

ICUの設立期における合衆国の大学での宗教教育について、歴史的な研究を進めている。

### II. 著作/Publications

1. 「教養教育の展望」『IDE』407、1999年4-5月号 40-45.
2. Socrates and Nietzsche for the Twenty-first Century. In Philip Cam et al (Eds.), *Philosophy, Culture and Education*. Korean National Commission for UNESCO, 1999, 205-217.

### III. 学会参加／Conference Presentations

1998年9月19日相模原市の泉短期大学で開催されたデューイ学会に参加した。

1998年10月3日から4日筑波大学で開催された教育史学会に参加し、一部会を司会した。

1998年10月17から18日山梨大学で開催された教育哲学会に参加し、全国編集委員会に出席した。

1998年10月29日から31日 Holiday Inn City Center, Chicago で開催された History of Education Society の年次大会に参加した。

1999年1月8日から10日港区芝会館において開催されたアメリカ教育史研究会の研究集会に参加し、「アメリカ的大学はいつ誕生したか？」と題する発表を行った。

1999年1月17日から20日吹田市の国立民族学博物館で開催された国際シンポジウム「アメリカにおける公共性」に参加し、一部会を司会した。

1999年6月5日から6日倉敷市の倉敷芸術科学大学で開催された大学教育学会の年次大会において一部会の世話人をつとめるとともに、調査の報告をおこなった。

### IV. 学会での役職／Professional Activities

教育哲学会「教育哲学研究」編集委員→1999年10月

## 林 昭道 准教授

### I. 研究活動／Research Activities

#### 1. ドイツ教育思想史

特に近代以降。E. Cassirer, E. Spranger の研究を踏まえて

#### 2. キリスト教と教育

ルネッサンス思想の人間把握とキリスト教の人間把握の比較

### V. その他／Others

#### ii) 研究助成金／Research Grants

学校法人国際基督教大学研究助成金 1998年（1997～1999まで連続）

テーマ「ICUの教育カリキュラムにおけるキリスト教教育研究のあり方」

林昭道（主査）、千葉泉弘、立川明、町田健一、李麻芝（以上教育学科）、

森本あんり（人文学科）、桑ヶ谷森男（ICUHS）

## 町田 健一 準教授

### I. 研究活動／Research Activities

1. 初等・中等教育レベルにおける私立学校調査
  - ・ 建学の精神とその取り組み
  - ・ 一貫教育の意義と問題点
  - ・ 寮教育の意義と問題点
2. 教員養成に関する研究
  - ・ 教育実習体験の実証的研究
  - ・ キリスト教学校教育における教師教育の課題
3. 教育課程の革新とその実施に関する研究
4. 数学教育研究
  - ・ 数学教育の目標論及び教育内容の精選と構造化
  - ・ 問題解決学習における効果的な内言形成
  - ・ コンピューター教育の目的と問題点
5. 生徒指導に関する研究
  - ・ 道徳教育における教育哲学と価値観形成の課題
  - ・ 性教育における教育哲学及び教育内容

特に、上記 (1)～ (3) 項に関する研究取材を下記の日程で行った。いずれも校長及び／または宗教主事、その他関係教員にインタビュー、学校見学。

- ・ 桃山学院高等学校、 1998年12月21日
- ・ 同志社高等学校、 1998年12月21日
- ・ 近江兄弟社学園中学校高等学校、 1998年12月28日
- ・ 平安女学院中学校高等学校、 1998年12月28日
- ・ 関西学院中等部高等部、 1999年1月25日
- ・ 清和女子中学校、 1999年1月26日
- ・ 松山東雲中学校高等学校、 1999年1月26日
- ・ 松山城南高等学校、 1999年1月27日

- ・ 広島女学院中学校高等学校、 1999年1月27日
- ・ 大阪女学院中学校高等学校、 1999年1月28日
- ・ 北星学園新札幌高等学校、 1999年2月6日
- ・ 遺愛女子中学校高等学校、 1999年2月8日
- ・ 東奥義塾高等学校、 1999年2月9日
- ・ 弘前学院聖愛高等学校、 1999年2月9日
- ・ 東北学院高等学校、 1999年2月10日
- ・ 西南学院中学校高等学校、 1999年2月15日
- ・ 福岡女学院中学校高等学校、 1999年2月15日
- ・ 鎮西学院高等学校、 1999年2月16日
- ・ 活水中学校高等学校、 1999年2月16日
- ・ 西南女学院中学校高等学校、 1999年2月17日
- ・ 愛農学園農業高等学校、 1999年2月24日-25日
- ・ 金城学院中学校高等学校、 1999年2月25日
- ・ 岐阜済美学院済美女子高等学校、 1999年2月26日
- ・ 北陸学院中学校高等学校、 1999年2月27日
- ・ 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、 1999年7月29日-30日

(特に一貫教育、寮教育モデルとして)

<北星学園北星余市高等学校、基督教独立学園高等学校、キリスト教愛真高等学校、敬和学園高等学校、聖隷学園高等学校（以上キリスト教主義学校）、社会福祉法人北海道家庭学校（以上救護院。労作教育、寮教育）、札幌自由が丘学園、きのくに子どもの村学園小学校中学校（以上フリースクール）、八王子市立第五中学校夜間学級（以上夜間中学）に続く継続研究である>

## II. 著作／Publications

### i) 研究論文／Research Articles

1. 「実習校における授業実習の事前事後指導の分析～大学側の指導のあり方を考える～」  
『会報』第46号、関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会、1998年12月7日、33-37頁
2. 「よりよい介護等体験をするために」『会報』第28号、東京地区教育実習研究連絡協議会、1999年3月31日、24-27頁

## ii) 著書／Books

1. (分担執筆)「あらためて教師志望を考える」『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』大修館書店、1999年5月1日、83-86頁

## iii) その他の出版物(編集アドバイザーとして)／Other Publications

1. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『授業を学ぶ～中学校・英語～』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1998年10月1日
2. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『教育実習生の授業～その変容を見る～(中学校・英語)』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1998年10月1日
3. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『授業を学ぶ～中学校・数学～』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1998年10月1日
4. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『教育実習生の授業～その変容を見る～(中学校・数学)』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1998年10月1日
5. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『授業を学ぶ～中学校・国語～』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1999年6月1日
6. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『教育実習生の授業～その変容を見る～(中学校・国語)』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1999年6月1日
7. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『授業を学ぶ～高等学校・物理～』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1999年6月1日
8. 教師教育ビデオ教材・教育実習シリーズ『教育実習生の授業～その変容を見る～(高等学校・物理)』メディア教育開発センター編、放送大学教育振興会、1999年6月1日

## III. 学会における研究発表・参加／Conference Presentations

1. 課題研究「教育実習と学生の教職観の変化—大学側の積極的な関わりを考える—」日本教師教育学会 第8回大会(発表要旨集 76-77頁)、奈良女子大学、1998年10月25日
2. 「キリスト教学校教育のあり方に関する研究—理念および教師教育の再考—」日本キリスト教教育学会 第11回大会(発表要旨集録 28頁)、敬和大学、1999年5月29日
3. 日本カリキュラム学会 第10回大会、名古屋大学、1999年7月3日-4日参加

4. 「性教育における価値観形成の課題—授業及び教育相談による学生の態度変容過程の分析から—」 日本教育心理学会 第 41 回総会（発表論文集 629 頁）、兵庫教育大学・甲南女子大学、1999 年 8 月 27 日

#### その他の研究大会における研究発表・参加／Other Presentation

1. 「教育実習及び介護等体験に関する総合的調査研究：教育実習の調査研究（中間発表）」 関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会・東京地区教育実習研究連絡協議会 1999 年度研究大会、日本大学、1999 年 5 月 16 日
2. 「教育実習単位増の問題点と課題」 全国私立大学教職課程研究連絡協議会 第 19 回研究大会（要旨集 14 頁）、中京大学、1998 年 5 月 23 日
3. 平成 11 年度九州地区中高一貫教育推進フォーラム、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、1999 年 7 月 29 日参加

#### IV. 研究委員等／Professional Activities

1. 東京地区教育実習研究連絡協議会研究委員 1993 年 2 月～
2. ICU 教育研究会（ICU 教育セミナー）世話人（準備委員）1992 年 4 月～
3. 文部省教育改革モニター 1997 年 4 月～1999 年 3 月
4. 東京地区教育実習研究連絡協議会運営委員 1998 年 4 月～
5. 教員の資質向上東京都連絡協議会委員 1998 年 4 月 1 日～

#### V. その他／Others

##### i) 講演／Lectures

1. 「青少年の性意識と価値観形成の課題」（Can Do カレッジ講演会）Can Do Harajuku、1998 年 11 月 15 日
2. 「男と女の正しい関係—性を考える—」（C-Week「マルチイベント」講演）国際基督教大学高等学校、1999 年 6 月 9 日
3. 「親に求められる性教育とは—こんな時代だからこそ子供たちに正しい知識と価値観を—」（教育講演会）長野ふれあい福祉センター、1999 年 7 月 1 日
4. 「現代におけるキリスト教学校教育の課題」（1999 年度全国三育中等教育研修会特別講演）ゆがふいん沖縄、1999 年 7 月 27 日

## ii) 研究助成金／Research Grants

1. 国際基督教大学研究助成金補助金、1997年4月1日～、(林昭道氏、立川明氏、千葉 泉弘氏との共同研究)

## <心理学研究室／Department of Educational Psychology>

### 栗山 容子 教授

#### I. 研究活動／Research Activities

1. 子どもの言語発達と母親の言語入力との関連：述語動詞獲得における動詞の意味特性と母親の入力との関連の分析
2. 出生より就学までの低出生体重児の多面的縦断的研究：発達援助の観点から分析

#### II. 著作／Publications

##### i) 研究論文／Research Articles

- ・低出生体重児の多面的縦断的研究—3歳までの発育・発達と養育環境」星永（筆頭著者）、小田切房子他12名と共同執筆）小児保健研究 1998. Vol, 57, 745-754.

##### iii) その他の出版物／Other Publications

- ・「国際基督教大学における SAT について」 大学入試フォーラム No 21. 1999、32-40. 大学入試センター
- ・「モニター試験の問題分析」『大学の各専門分野への適性の評価を目的とする総合試験のあり方に関する共同研究 最終報告書（平成 8-10 年）』 1999. 3 大学入試センター研究開発部 P.65-70.

#### III. 学会発表／Conference Presentations

1. 「低出生体重児の気質と母親の意識・感情の関連」（星三和子、蓮見元子、瀬戸淳子との共同発表、発表者）
2. 「目標達成場面における母親の働きかけと子どもの反応」（瀬戸淳子、蓮見元子、秦野悦子、星三和子との共同発表）  
上記 1, 2. 日本教育心理学会第 41 回総会 1999.8.25-8.27、兵庫教育大学・甲南女子大学（発表論文集 p.145, p.144）

3. 「個別試験における総合試験」 総合試験に関する研究会 1998.12.4、大学入試センター

#### IV. 学会・研究団体等での役職／Professional Activities

- ・「発達心理学研究」編集委員
- ・JCHAT 言語科学研究会 運営委員

#### V. その他／Others

##### i) 講演／Lectures

- ・国立大学入学者選抜研究連絡協議会第 20 回大会 テーマ指定討論会「総合試験」パネリスト 1999.6.4 東京大学安田講堂

##### ii) 研究助成金／Research Grants

1. 平成 11 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「JCHAT による言語習得のため日本語発語資料」（代表者 寺尾康）分担者
2. 総合試験 平成 11 年度科学研究費（基盤研究 B）「大学入学者選抜資料としての総合試験の開発的研究」（代表者 柳井晴夫）分担者
3. 平成 11 年度国際学術研究「普遍的言語発達指標開発のための日英語の習得比較研究」（代表者 白井英俊）分担者

### 磯崎 三喜年 準教授

#### I. 研究活動／Research Activities

1. 自己評価維持維持システムの研究
2. 課題への関与度が課題遂行と帰属に及ぼす効果について：単独条件と他者共在条件との比較
3. 自己認知と適応に関する研究

#### II. 著作／Publications

##### i) 研究論文／Research Articles

1. 「他者共在場面における課題遂行と要求水準、課題への関与度、帰属の関連について」『教育研究』 第 41 号, 1999 年 3 月, 1-21 頁（磯崎三喜年・黒石憲洋共著）



2. 「現実自己と理想自己およびそのズレと適応に関する研究」『教育研究』第 41 号, 1999 年 3 月, 23-40 頁 (磯崎三喜年・黒石憲洋・丸山歌織・土居香央理・鈴木結花共著)

#### ii) 著書／Books

1. 「社会的状況における人間行動」磯崎三喜年・小野寺孝義・宮本正一・森和彦 (編) 『マインド・スペース：加速する心理学』 1999 年 5 月 ナカニシヤ出版 pp.141-153.

#### iii) その他出版物／Other Publications

1. 『心理学辞典』(「自己評価維持モデル」、「社会的比較過程の理論」、「集団極性化」、「社会的交換理論」など 8 項目執筆) 中島義明 (編集代表) 1999 年 2 月 有斐閣

#### III. 学会参加 (発表) /Conference Presentations

1. 「要求水準とポジブル・セルフ、自尊感情の関連について」日本心理学会第 62 回発表論文集、東京学芸大学、1998 年 10 月 8 日、p. 72 (黒石憲洋と共同発表)
2. 「要求水準と課題への関与度、自尊感情の関連について」日本心理学会第 62 回大会発表論文集、東京学芸大学、1998 年 10 月 8 日、p. 73 (黒石憲洋と共同発表)
3. 日本グループ・ダイナミックス学会第 46 回大会参加 名古屋大学、1998 年 9 月 26-27 日
4. 日本社会心理学会第 39 回大会参加 筑波大学 1998 年 11 月 7-8 日

### David W. Rackham 準教授

#### I. RESEARCH ACTIVITIES／研究活動

Human factors considerations in the development of new display consoles for the controller / coordinator team in en route air traffic control (ATC) (with Hiroki Sato, Japanese Ministry of Transport, Electronic Navigation Research Institute, Mitaka, Tokyo, Japan).

Analyses of university admissions data with a view to improving the correspondence between admissions credentials and subsequent academic performance.

Psychology and the environment: evaluating responses to the natural and built environments.

Development of a reader for the Japan Studies programme at International Christian University (with M. W. Steele)

Development of a bilingual (Japanese / English) text for use by undergraduate psychology students in Japan (with T. Sasao and others).

## II. PUBLICATIONS／著作

Quay, Suzanne, and Rackham, David W. (1999). Deaf culture in Japan: A language attitude survey. *The Journal of Social Science*, 40, 37-55.

Rackham, David W., and Domondon, Andrew (1999). Improving the correspondence between the academic potential of university students and their subsequent academic performance. *Educational Studies*, 41, 41-59.

## III. CONFERENCE ATTENDANCE/ACTIVITIES／学会参加

Planner/Coordinator of the Symposium and Colloquium series of the Department of Psychology, International Christian University, through August 31st, 1999.

## IV. PROFESIONAL ACTIVITIES／学会、研究団体等での役職

English language abstract services on behalf of the Japanese Association of Group Psychotherapy and the *Japanese Journal of Group Psychotherapy*.

Member, Board of Trustees, the American School in Japan.

Subscription and circulation services on behalf of the *Japan Christian Review*.

## V. OTHER ACTIVITIES／その他の活動

A variety of services of an educational and service nature in connection with overseas personnel / missionary associate status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan).

## 笹尾 敏明 準教授

### I. Research Activities／研究活動

1. United Nations Illegal Drug Market Project - a 21-nation study commissioned by the United Nations to investigate the patterns and etiology of drug use
2. Measuring cultural competence across cultures - a cross-cultural measurement project

- to develop a global scale for measuring the degree of cultural adaptability in Japan, Korea, Hong Kong (China), and the United States
3. Self-efficacy among adolescents across cultures - a cross-cultural project to examine the correlates of self-efficacy in Korea, Germany, Japan, and the United States
  4. "Global Challenges to Community Psychology" - a book project that entails editing a book of chapters on community and environmental issues authored by international authors
  5. Health Promotion, Prevention & Policy in Japanese universities - a cross-cultural project that examines the prevalence and etiology of alcohol, cigarette, and other health-compromising behaviors in Japan and the United States
  6. "Racial / Ethnic Minority Issues in Community Psychology" - a book project for the Society for Community Research and Action that entails editing a textbook on racial and ethnic minority issues in community research and action

## II. Publications／著作

### i) Research Articles／研究論文

- ・ "Campus diversity and well-being: A community psychological perspective. *Educational Studies*, 41, 61-83.

### ii) Books／著書

- ・ 「アメリカの薬物依存の現状とその予防・治療対策」、和田清編 「精神医学レビュー：薬物依存」 ライフサイエンス（近刊予定）
- ・ 「予防の社会心理」 斎藤勇・川名好裕編 「対人社会心理学重要研究集 7：社会心理学の応用と展開」 誠信書房、1999、259-302.
- ・ "Perceived racism, racial environments, and hate violence against Asian American adolescents: Research, clinical issues, and prevention. In B. Wallace (Ed.), *Violence among America's racial minorities*. New York: Teachers College Press. (in press)
- ・ Identifying at-risk Asian American adolescents in multiethnic schools: An ecological approach. In B. Yee, N. Mokuau, & S. Kim (Eds.), *Cultural competence for professions working with Asian / Pacific American communities: Theoretical and practical considerations* (CSAP Asian American Monograph). Rockville, MD: Center for Substance Abuse Prevention, 1998.

### iii) Other Publications／その他出版物

- ・ "Review of Levine & Perkin's (1997) Community Psychology" *Japanese Journal of Community Psychology*, Vol. 2, No. 2, 1999 pp. 148-151.

### III. Conference Presentations／学会参加

- Sasao, T., Niiya, Y., Nishimura, M., Kano, M., & Otsuki, M. (1999, March). The politics of college drinking in Japan: Cultural-contextual issues in designing prevention interventions. Paper presented at the first annual conference of the Japanese Association of Community Psychology, Tokyo, Japan.
- Sasao, T., Niiya, Y., Nishimura, M., Kano, M., & Otsuki, M. (1999, June). Prevention and culture: A cultural paradox. Paper presented at the biennial conference of the Society for Community Research and Action, New Haven, CT, U.S.A.
- Sasao, T. (1999, August) The independent-interdependent self as a moderator between self-discrepancy and negative affect in the Japanese context. Paper presented at the third biennial Asian Association of Social Psychology, Academia Sinica, Taipei, Taiwan.
- Sasao, T. (1999, August). Self-discrepancy and affect across cultures: Extending Higgins' (1987) self-discrepancy theory. Paper presented at the annual convention of American Psychological Association, Boston, MA, U.S.A.
- Sasao, T. (1999, August). Prevention interventions and policy issues in Japan: A cultural paradox. Paper presented at the annual convention of American Psychological Association, Boston, MA, U.S.A.

### IV. Professional Activities／学会・研究団体等での役職

- ・ Editorial Board Member for: ① *Journal of Community Psychology*, ② *American Journal of Community Psychology*, ③ *Japanese Journal of Community psychology*
- ・ Past Chair, Racial and Cultural Affairs Committee, Society for Community Research and Action
- ・ Chair, Ethnic Minority Mentoring Award Committee, Society for Community Research & Action, U.S.A.
- ・ Asia-Pacific International Coordinator, Society for Community Research and Action
- ・ Ph.D. Dissertation Advisory Committee Member for Jon Kaplan, M.A. at the University

of California, Los Angeles, CA, U.S.A. (1998-present)

- Listed in Who's Who in Medicine and Healthcare (1st ed.) (1996-present). New Providence, NJ: Marquis' Who's Who; Men of Achievement (1995, 1996, 1997, 1998, 1999); Marquis' Who's Who in the World (1995-present).

## V. Others／その他

### i) Lectures／講演

- "Youth Problems in the Multicultural Society: Challenges and Opportunities" An invited lecture at Tokyo Union Theological Seminary, Mitaka, Tokyo, Japan (May 1999)
- "Going beyond the Educational Crisis: A multicultural challenge" Mitaka International Citizens College (三鷹国際市民大学), December 4-5, 1998.
- "Correlates of alcohol use among Japanese college students" An invited seminar paper presented at the Department of Psychology, University of California, Los Angeles, CA, U.S.A. (February 1999)
- "Social Psychology of Prevention" A graduate course in social psychology, Department of Social Psychology, University of Tokyo (東京大学大学院). (April-September 1999)
- "Special Lectures in Social Psychology" Department of Psychology, Shinshu University (信州大学人文学部), Matsumoto, Nagano (September 1999)

### ii) Research Grants／研究助成金

- ICU College of Liberal Arts Research Grant: Prevalence and correlates of alcohol and cigarette use among ICU students (1998-2000)
- Developing Cultural Competence in Homes, Schools, and Communities: A Community Psychological Approach. Grant-In-Aid for Scientific Research, Japanese Ministry of Education (1999-2001)

## <視聴覚教育研究室／Department of Audio-Visual Education>

阿久津 喜弘 教授

### I. 研究活動／Research Activities

1. 「教育コミュニケーション研究」の体系化
2. 「メディア行動」の分析
3. 「テレビ暴力番組が子供の非社会的行動に与える効果についての研究」(共同研究)

### II. 著作／Publications

#### ii) 著書／Books

「子どもはテレビとどのようにかかわっているのか」日本子ども社会学会編『いま、子ども社会に何がおこっているか』北大路書房、1999年6月、152-158頁。

### III. 学会参加／Conference Presentations

1. 第6回日本子ども社会学会大会、1999年6月25日-27日、龍谷大学(京都市下京区七条大宮)
2. 26th International Congress on Arts and Communications, July 11th through July 18th, 1999, Lisbon, Portugal

### IV. 学会・研究団体等での役職／Professional Activities

1. 日本教育メディア学会理事, 編集委員
2. 日本子ども社会学会理事, 研究刊行委員長
3. 現代生涯教育研究所顧問
4. Deputy Governor, the American Biographical Institute Research Association

### V. その他／Others

#### ii) 研究助成金／Research Grants

平成11年度科学研究費補助金(基盤研究, C)

## 中野 照海 教授

### I. 研究活動／Research Activities

1. マルチメディア研究開発研修計画の推進（文部省研究開発事業助成・日本視聴覚教育協会、平成 11 年度 座長）
2. 「バーチャルリアリティを適用する教育過程の研究開発」（文部省研究開発事業助成・日本視聴覚教育協会、平成 11 年度 座長）
3. 「教育メディアの技術史・教育史画像データベースの開発・提供について」（文部省科学研究費平成 11 年度 研究分担者）
4. 「マルチメディアの有効利用を促進するための基礎的調査研究」（文部省委嘱研究平成 11 年度・視聴覚教育協会、座長）

### II. 著作／Publications

#### i) 研究論文／Research Articles

1. 課題研究「『インターネットの教育利用』について」 第 5 回日本史聴覚・放送教育学会 1998 年度大会論文集 1998 年 10 月 p.50-51.
2. 「CD-ROM『新たな生涯学習の展望』の開発」（文部省研究委嘱「マルチメディアの有効利用を推進するための基礎的調査研究」の報告書）「研究開発の背景と目的」（p. 4-5）、「研究開発の経過」（p.6-8） 1999 年 3 月
3. 「バーチャルリアリティとは ——教育と経験と認識を考える——」『視聴覚教育』 1999 年 7 月 p.56-59.

#### iii) 専門関係出版物／Other Publications

1. 「マルチメディアの研究開発の課題」『マルチメディア教材研究開発ワークショップテキスト』 1999 年 1 月 pp.6-15.
2. 「教育に関する全国的な総合情報システムの構築をどう図るか」『教職研修』 1999 年 1 月号 p.64-67.
3. 「サイバーテキストとは」『ヒロコ・グレースの海外旅行英会話』日本放送出版協会 1999 年 2 月 p.2-3.
4. 「序文」『新たな生涯学習の展望——マルチメディアの活用による学習資源の有効活用と学習形態の多様化について——』日本視聴覚教育協会 1999 年 3 月 p. 2.
5. 「コンピューターや情報通信ネットワークを生かす学習環境づくりをどう進めるか」

【教職研修】1999年9月号 p.56-57.

6. 巻頭言（日本教育メディア学会『ニュースレター』に）「映像の教育効果——高次知的過程への貢献——」15号（1998年9月）、「学会名の改称『日本教育メディア学会』」第16号（1998年11月）、「バランスの良いメディア・プログラム」第17号（1999年3月）

### III. 学会発表等／Conference Presentations

1. 課題研究「『インターネットの教育利用』について」日本教育メディア学会（1998年10月24日 於東京情報大学）

### IV. 学会・研究団体・審議会等／Professional Activities

1. 日本教育メディア学会会長
2. 日本教育工学会理事 出版担当
3. 文部省生涯学習審議会社会教育分科審議会特別委員
4. 文部省生涯学習審議会教育メディア部会委員
5. 文部省生涯学習局新教育メディア研究開発委員会委員
6. 国立メディア教育開発センター客員教授
7. 国際協力事業団トルコ人口教育促進プロジェクト国内委員会委員長（1998年9月まで）
8. 「視聴覚教育賞（文部大臣賞）」（文部省・日本視聴覚教育協会）選考委員会委員長
9. 財団法人日本視聴覚教育協会理事
10. NHK学校放送中央諮問委員会委員
11. マルチメディア教材コンクール（日本教育新聞社）審査委員
12. 日本マルチメディア・フォーラム（JMF）・アドバイザリーボード委員（1998年10月まで）
13. 高等教育情報化推進協議会委員（文部省・衛星通信教育振興協会・日本視聴覚教育協会 平成11年度）

### V. その他／Others

#### i) 講演・放送等／Lectures

1. 講義「視聴覚教育の意義と方法」長野県生涯学習センター講座 1998年11月6日
2. 講評「視聴覚教育賞について」日本視聴覚教育協会（1998年12月10日 於国立教



育会館)

3. Lecture, Problems of Evaluation for Audiovisual Communications, Jan. 21-22, 1999, JICA Okinawa International Center.
4. 講義「マルチメディアの研究開発の課題」マルチメディア・ワークショップ（日本視聴覚教育協会）1999年1月29日 於神戸市ぶどうの丘会議場
5. Lecture, Fundamental Problems of Audiovisual Communications, May 20-21, 1999, JICA Okinawa International Center.
6. 講演「これからの放送教育の課題—大会の総括と評価—」全国放送教育研究会連盟全国大会（1999年8月4日 於オリンピック記念青少年センター）

## <英語教育研究室／Department of English Teaching>

John Maher 教授

### I. 研究活動／Research Activities

1. Book in preparation: 'Ainu Grammar'. For publication by Munich, LINCOM EUROPA,
2. Dictionary of Place Names. Project: year 4
3. Language Awareness. Project: year 4.
4. (With H. Giles et al) PacRim International Survey on Intergenerational Communication.

### II. 著作／Publications

#### i) 研究論文／Research Articles

1. "Intergenerational Patterns of Communication: an International Research Survey" with A. Carson et al. *International Review of Social Psychology*, Vol.24, 5: 35-48.
2. "Tagengosei to Tabunkasei" [Multilingualism and Multiculturalism]. In *Esunishiti no Shakaigaku [The Sociology of Ethnicity]*. Revised Edition. Eds. Nakano H and Imazu K. Tokyo, Sekai Shiso Sha, 1998. pp.145-159.
3. "Language Interventions in the Postwar Constitution". *The New Observer*, Winter, 1998.

#### iii) その他出版物／Other Publications

Book Reviews

"Komori" by A. Tamanoi. *Bulletin of Asian Cultural Studies* 10, 1999, pp. 73-95.

Newspaper / Magazine articles

*Yomiuri Shinbun* "Internationalization in the City" August 5, 1999.

### III. 学会参加／Conference Presentations

1. Université de Paris, St Denis, "La Langue Maternelle: la vue psychanalytique". Colloque sur La Langue Maternelle. March, 1999.
2. Symposium, Plenary Speaker. Tokyo Association of International Families, Symposium, May, 1999.
3. Japan Association of Language Teachers. Saitama, November, 1998. "Language Awareness".
4. "The Ainu Language Revival". World Congress of Applied Linguistics, Tokyo, August, 1999.

### IV. 学会・研究団体等での役職／Professional Activities

1. Executive Board Member of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences [Shakai Gengo Kagaku kai].
2. Editorial Board Member for Medical Education
3. Review Editor for International Journal of Bilingualism and Bilingual Education.
4. Executive Council Member of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences.

### V. その他／Others

#### i) 講演／Lectures

Invited lectures on the following topics: 'Linguistics for Beginners', 'Japanese as an International Language', 'Multilingualism in Japan', 'Current State of the Irish Language', 'English as an International Language of Medicine', 'Raising a Bilingual Child'

1. Wakayama Prefectural Medical School, Department of Communication, November, 1998
4. Mitaka Association for Bilingual Children in Schools, February, 1999.
3. Osaka University, Faculty of Letters, Autumn, 1998
4. Mitaka Community Centre, Summer, 1999.
5. Japan Society for the Promotion of Science, November, January, March, August.

6. Toho University, Department of English, October, 1999.

Timothy J. Riney 教授

### I. Current research interests and projects／研究活動

1. A former ICU graduate student, Kyoko Okamura, and I have completed the measurements of voice onset time for /p/, /t/, and /k/ of 10 Japanese-English bilinguals (5 native English and 5 native Japanese, all age 30 to 60) who are all long time residents of Japan. The purpose of this project is (1) to test the maturation hypothesis (related to critical age), (2) to test if there is a convergence of voice onset time in the languages of bilinguals, and (3) to replicate a previous study of Japanese voice onset time. We are currently writing up a paper for this that we will submit to the ICU Language Research Bulletin.
  
2. As coordinator of the ICU Department of English Teaching, I have been working toward reform in four areas: (1) the recruitment of new personnel, (2) the introduction of an all-English medium curriculum option that could attract more international students to our program, (3) the integration of our program with the 300-level courses in the College of Liberal Arts; and (4) the development of a web page for our program.

### II. Publications／著作

#### i) Research Articles／研究論文

Riney, T. & Takagi, Y. Global foreign accent and voice onset time. *Language Learning* 49, 2, pp. 275-302.

### IV. Professional Activities／学会、研究団体等での役職

(1999-99). Referee for Journal of Multilingual and Multicultural Development.

(1998-99). Editorial board member of and referee for JALT Journal of the Japan Association of Language Teachers.

(Head of Editorial Board) *Language Research Bulletin*, Vol. 13, 1998, Tokyo: ICU (with K.

Era, P. Galien, and T. Ogawa). Pp. 173.

## <研究員 I >

深谷 潤

### I. 研究活動／Research Activities

1. カール・ヤスパースの教育哲学研究
2. キリスト教教育の哲学的考察

### II. 著作／Publications

#### i) 研究論文／Research Articles

1. 現代日本におけるキリスト教教育理論に関する一考察  
 ー「教育の神学」批判ー 国際基督教大学学報 I-A 『教育研究 41』1999年3月31日
2. キリスト教教育に対する教育哲学的問題提起  
 ー学生による聖書解釈の事例研究を中心にー  
 平安女学院短期大学「紀要」第29号 1999年3月10日
3. 信仰と不信仰の転換点に関する一考察  
 ーヤスパースとティリッヒを手がかりにー  
 「キリスト教教育論集」第7号 pp. 1ー11 日本キリスト教教育学会 1999年5月

#### ii) 著書／Books <翻訳／Translation>

「哲学的信仰」カール・ヤスパース著（共訳）理想社 1998年11月30日

### III. 学会発表／Conference Presentations

日本ヤスパース教会 第15回大会 早稲田大学文学部（1998年12月12日）  
 研究発表「日本人にとってのヤスパース哲学とキリスト教ー世間の中の日本人ー」

### IV. 学会等での役職／Professional Activities

日本キリスト教教育学会研究プロジェクト実行委員 1998年6月ー

## V. その他/Others

日本キリスト教教育学会セミナー1999

関西学院大学千刈セミナーハウス 1999年8月18 - 20日

討論会にて司会

## 鬼頭 當子

### I. 研究活動/Research Activities

大学図書館経営の将来像に対する意識調査

### III. 学会参加/Conference Presentation

1998年10月21日 - 23日 平成10年度(第84回)秋田 全国図書館大会に参加

1999年7月15日 - 16日 金沢工業大学 図書館・情報科学に関する国際ラウンドテーブル会議 デジタル・ライブラリーの現況と留意点に参加

## V. その他/Others

1999年2月16日 第一回 図書館サポートフォーラム賞受賞

1999年8月31日 - 9月4日 平成11年度文部大臣委嘱図書館専門職員養成講習

富士大学 図書館サービス論 講師

## 渡部 淳

### I. 研究活動/Research Activities

1. 日本における国際理解教育の展開とその教育史的意義
2. 社会科教育における教育方法の国際比較

### II. 著作/Publications

#### i) 研究論文/Research Articles

1. 「社会科教師が見た英語科の国際理解教育」『現代英語教育』(研究社)1998年12月号 pp.12-21

2. 「子供たちの国際理解と学校」『教育と情報』（第一法規）No. 490 pp. 2～7

### III. 学会参加／Conference Presentations

1. 司会 全国私立中学高等学校国際教育研修会 分散会 A「地域と世界をつなぐ国際教育」 1998年9月24日（京都ガーデンパレス）
2. 司会 日本国際理解教育学会 第1回地域研究会・実践討論会  
「世界に向け地域に立った国際理解教育のあり方を考える」  
1998年11月10日（島根県松江市立本庄小学校）
3. 司会 異文化間教育学会 第20回大会・分科会 1999年5月30日（鳴門教育大学）
4. 司会 日本国際理解教育学会 第9回研究大会・分科会 VII 1999年6月13日（帝京大学）

### IV. 学会・研究団体等での役職／Professional Activities

1. 日本国際理解教育学会 常任理事（紀要編集委員長、ヴィジョン検討委員）
2. 異文化間教育学会 幹事（研究担当）
3. 異文化間教育学会 20周年記念シンポジウム委員
4. 全国私立中学高等学校国際教育研修会 専門委員

### V. その他／Others

#### i) 講演／Lectures

1. 東都生協リーダーセミナー「ディベート概論」1999年2月22日（東京都消費者センター）
2. ICU 教育セミナー「カリキュラム改革—社会科の視点から」1999年8月2日 (ICU)

#### iii) その他／Others

1. 審査委員長（東京都第4学区高等学校の生徒による）高校生意見発表会  
「国際化時代がやって来た—私の経験・私の提案」1999年3月24日（文京区総合テ  
クノセンター）
2. 司会（日本・韓国・米国の教師／生徒による）グローバルクラス'99  
パネルディスカッション「教師は何を学んだか—指導のねらい・壁・そして発見」
3. 東京大学、東京都立大学、ルーテル学院大学 非常勤講師

## 吉岡 良昌

### I. 研究活動／Research Activities

1. 教会教育論
2. 人間形成の課題（宗教と教育）

### II. 著作／Publications

#### i) 研究論文／Research Articles

1. 書評『キリスト教学校の再建 教育の神学 第二集』  
キリスト教文化学会年報 NO. 44

### III. 学会発表（参加）／Conference Presentations

1. 研究発表「若者の価値教育」  
上智人間学会 於 上智大学、1998年9月19日
2. 日本キリスト教学会 関東部会 研究発表司会  
於 東洋英和女学院大学 1999年3月25日
3. キリスト教教育推進協議会、司会  
於 日本キリスト改革派恩寵教会 1999年3月22日
4. 日本キリスト教教育学会第11回大会 参加  
於 敬和学園大学 1999年5月29日
5. 日本キリスト教教育学会セミナー 参加  
於 関西学院千刈セミナーハウス 1999年8月18日－20日
6. 第9回アジアキリスト教保育協議会 参加  
於 都ホテル東京 1999年8月24日－27日
7. 日本教育学会第58回大会 参加  
於 玉川大学 1999年9月3日－5日

### V. その他／Others

1. 日本キリスト教教育学会常任理事（会計監査）、『キリスト教教育論集』編集委員
2. 財団法人 日本キリスト教教育センター評議員
3. 日本キリスト改革派教会 教師（規定外奉仕）

## 雨宮 基博

### I. 研究活動／Research Activities

1. 学級集団への集団精神療法の適用

### III. 学会発表及び参加／Conference Presentations

1. 日本心理臨床学会 第 17 回大会 参加  
日時：1998 年 9 月 18 日～21 日 場所：名古屋大学
2. 日本心理学会 第 62 回大会 参加  
日時：1998 年 10 月 8 月～10 日 場所：東京学芸大学
3. 日本「心の教育」研究開発協会 第 2 回研修大会 発表  
「学級集団精神療法のシナリオロールプレイ法」  
日時：1998 年 11 月 22 日～23 日 場所：東京リバーサイドホテル
4. 日本集団精神療法学会 第 16 回大会 発表  
「集団精神療法の学級集団への適用－否定的感情表現とその教育的展開－」  
日時：1999 年 3 月 19 日～20 日 場所：ウイングス京都
5. 国際力動的心理療法研究会 プレコングレス「教師のための応答構成法」参加  
日時：1999 年 7 月 23 日 場所：PAS 心理教育研究所
6. 国際力動的心理療法研究会 第 5 回年次大会 参加  
日時：1999 年 7 月 24 日～25 日 場所：PAS 心理教育研究所
7. 集中的多元統合集団精神療法プログラム「たこ天」参加  
日時：1999 年 8 月 18 日～22 日 場所：本栖湖ホテル
8. 日本教育心理学会 第 41 回総会 発表  
「集団精神療法の学級集団への適用の意義－いじめ力動（スケープゴート）への介入を通して－」  
日時：1999 年 8 月 25 日～27 日 場所：甲南女子大学

## 川津 茂生

### I. 研究活動／Research Activities

1. 対称性の知覚に関する実験心理学的研究



2. 自己矛盾した概念・言説の理解に関する研究
3. 運動と知覚の関係に関する研究

## II. 著作／Publications

### i) 研究論文／Research Articles

川津茂生、谷口有子、関 和彦 (1999) 「運動と知覚の関係に関する実験心理学的研究－運動によって誘発された刺激に対する反応時間 (3) －」 武道・スポーツ科学研究所年報 第 4 号 国際武道大学 pp. 143－146

### III. 学会参加／Conference Presentation

1. 日本心理学会第 62 回大会参加、1998 年 10 月 8 － 10 日、東京学芸大学
2. 第 2 回国際認知科学会／日本認知科学会第 16 回大会参加、1999 年 7 月 27 － 30 日、早稲田大学

## 苦米地 憲昭

### I. 研究活動／Research Activities

1. スクールカウンセリングの実践
2. 学生相談における面接方法

### II. 著作／Publications

#### iii) その他の出版物／Other Publications

1. 「大学におけるメンタル・ケア」座談会、大学時報Vol. 47、No. 263. 1998 年、pp. 14-29, 日本私立大学連盟
2. 「悲しむことの意味」国際基督教大学カウンセリングセンター活動報告第 10 号、1999 年、pp. 14-17
3. 「大学生のための精神医学」学生相談研究第 20 巻、第 1 号、1999 年、pp. 126-127 (書評)

### III. 学会参加／Conference Presentations

1. 日本心理臨床学会第 17 回大会、1998 年 9 月 18 － 21 日、名古屋大学

2. 日本学校メンタルヘルス学会第2回大会、1998年11月28－29日、長岡市コープ文化センター
3. 日本学生相談学会第17回大会、1999年5月14－16日、広島修道大学

#### IV. 学会・研究団体等での役職／Professional Activities

1. 日本学生相談学会常任理事 1995年～
2. 日本精神衛生学会運営委員 1993年～
3. 日本学生相談学誌「学生相談研究」編集委員 1995年～

#### V. その他／Others

##### i) 講演・ワークショップ／Lectures・workshops

1. 「教育相談研修講座中級」神奈川県教育センター、1998年9月9日
2. 「子どもや若者の心の葛藤とその意味」国際市民大学、国際基督教大学、1998年10月24日
3. 「インテーク面接と連携」第36回全国学生相談研修会、国立教育会館、1998年12月7－9日
4. 「学生相談室運営のコツ」第17回日本学生相談学会ワークショップ、広島修道大学、1999年5月14日
5. 「現代学生の意識と学生相談－教職員の学生理解のために」東京都立大学学生相談研究会、東京都立大学、1999年7月8日

### 富永 由美子

#### I. 研究活動／Research Activities

「日本語教育における視聴覚教育についての研究・視聴覚教材の開発」

「日本語教育における敬語研究・あいづち研究」(リオデジャネイロ連邦大学研究課題)

#### II. 著作／Publications

##### i) 研究論文／Research Articles

1. 「日本語教育におけるCAI教育」第9回全伯日本語・日本文学・日本文化学会論文集  
1998年 pp.217-215

2. 「コミュニケーション活動のための日本語教育指導－あいづち研究」第 10 回全伯日本語・日本文学・日本文化学会論文集 1999 年

## ii) その他の出版物／Other Publications

1. 「海外日本語教育事情－ブラジル」日本語を教える－海外就職 '99、アルク 1998 年 pp 101-103
2. 「教室で教える外国語表現－ポルトガル語編」日本語の教え方スーパーキット－教え方ガイドブック、アルク 1998 年 p. 36

## III. 学会参加／Conference Presentations

### i) 学会発表

1. 研究発表「日本語教育における CAI 教育」第 9 回全伯日本語・日本文学・日本文化学会・第 1 回南米学会（1998 年 9 月－パウリスタ州立大学文学部 ASSIS キャンパス）
2. 研究発表「コミュニケーション活動のための日本語教育指導－あいづち研究」第 9 回全伯日本語・日本文学・日本文化学会（1999 年 6 月 リオデジャネイロ連邦大学文学部）

### ii) 学会等参加

1. 1998 年 11 月 第 8 回言語教育学会－リオデジャネイロ連邦大学文学部
2. 1999 年 1 月 第 15 回一都五州日本語教師合同研究集会－ベロ・オリゾンテ日本語モデル校
3. 1999 年 7 月 国際交流基金日本語教育研究集会－国際交流基金サンパウロ日本語センター

## V. その他／Others

1. 講演「東洋のビジョン－日本の宗教」リオデジャネイロ連邦大学文学部 1999 年 1 月
2. 講演「東洋のビジョン－日本人の日常生活にみる伝統と習慣」リオデジャネイロ連邦大学文学部 1999 年 6 月
3. リオデジャネイロ連邦大学文学部助教授

## 海後 宗男

### I. 研究活動／Research Activities

1. コミュニケーションの受け手における認知過程
2. IT（情報通信技術）と教育コミュニケーションの関連性

### II. 研究論文／Research Articles

1. 「テレビ報道の機能分析～テレビ報道活動とその受け手に対する結果に関する実証的研究～」、国際基督教大学大学院教育学研究科提出博士論文 1999年

### III. 学会参加／Conference Presentations

49th Annual Conference of the International Communication Association, S.F., CA, May, 1999

### V. その他／Others

#### 研究助成金

- 1999年度明海大学浦安キャンパス学術図書出版助成金 1999年  
 1999年度宮田研究奨励金 1999年

## 松田 憲

### I. 研究活動／Research Activities

1. 第二言語読解研究
2. Critical Thinking in the Japanese EFL Classroom
3. 留学における単一文化性克服と曖昧耐性に関する研究

### II. 著作／Publications

#### i) 研究論文／Research Articles

1. 「留学における単一文化性克服と曖昧耐性に関する研究」 Language Laboratory 第36号、語学ラボラトリー学会 1999年 pp.149-166

### III. 学会発表／Conference Presentations

- i) "Application for Using Authentic Materials in the Second Language Classroom"  
第 24 回全国語学教育学会 (JALT) 年次国際大会 (1998 年 11 月 22 日、大宮ソニック  
シティー)
- ii) 「異文化理解と曖昧耐性について」日本比較文化学会第 21 回全国大会 (1999 年 6 月  
12 日、久留米大学)
- iii) シンポジウム "Critical Thinking in the Japanese Classroom" 第 12 回国際応用言語学  
会世界大会 (AILA'99 Tokyo) (1999 年 8 月 6 日、早稲田大学)

### IV. 学会・研究団体等での役職／Professional Activities

- 1. 第 12 回国際応用言語学会世界大会 (東京) 委員 1997 年～

## 篠原 和子

### I. 研究活動／Research Activities

認知意味論 (メタファー理論)

### II. 著作／Publications

#### i) 研究論文／Research Articles

- 1. "Time is a River, Yesterday is the Bank: A Sketch of Blending-Based Analysis of Time  
Metaphor." *ICU English Studies* vol.8, pp.31-42
- 2. "Conceptual Mappings from Spatial Motion to Time: Analysis of English and  
Japanese." In Chrystopher L.Nehaniv (ed.), *Computation for Metaphors, Analogy, and  
Agents. Lecture Notes in Artificial Intelligence 1562*. Berlin: Springer-Verlag, pp.230-  
241

#### ii) 著書／Books

*Epistemology of Space and Time: Analysis of Conceptual Metaphor in English and Japanese.*  
1999, 関西学院大学出版会 (博士論文)

### III. 学会参加／Conference Presentations

- 1. 1998 年 11 月

「時間の経過を表す移動様態動詞：メタファー的意味拡張の慣用化と辞書の記載について」

JACET 英語辞書研究会ワークショップ、早稲田大学

2. 1999年2月

“Constraints on Motion Verbs in the TIME IS MOTION Metaphor.”

25th Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society, University of California, Berkeley

3. 1999年6月

“Category Extension of the Japanese Verb *kuu*.”

日本言語学会第118回大会個人研究発表、東京都立大学

4. 1999年6月（松中義大 & 篠原和子）

“Verb Semantics and the Resultative Construction.”

ICU 言語研究会第2回ワークショップ、八王子大学セミナーハウス

5. 1999年6月

「空間概念と時間概念のメタファー的対応：上下軸の使用をめぐって」

ICU 言語研究会第2回ワークショップ、八王子大学セミナーハウス

6. 1999年7月

“Path Orientations in TIME IS MOTION: Comparison between English and Japanese.”

Researching And Applying Metaphor III, Tilburg University, The Netherlands

7. 1999年7月

“Metonymic Phenomena in Metaphorical Mappings: A Case Study of TIME IS A MOVING OBJECT.” International Cognitive Linguistics Conference 1999

(Theme Session *Metaphor and Metonymy as Conceptual Mappings*), Stockholm University, Sweden

8. 1999年8月

“Up-Down Orientation in Time Metaphors: Analysis of English and Japanese.” 12th World Congress of Applied Linguistics (AILA), Waseda University, Tokyo

## < 研究員 II >

### 上別府 隆男

#### I. 研究活動／Research Activities

メリーランド大学カレッジパーク校教育大学院

#### II. 著作／Publications

##### i) 研究論文／Research Articles

上別府隆男 “Albanian education in transition: Teachers as change agents” 国際基督教大学【教育研究】41号（1999年3月）

##### ii) 著書／Books

上別府隆男・Dennis Herschbach “How the Japanese prepare for work” Herschbach, D., & Campbell, C. 編 *Workforce Preparation — An International Perspective* 中の一章（Prakken Publication：ミシガン州アナーバー）（1999年出版予定）

##### iii) その他出版物／Other Publications

メリーランド州プリンス・ジョージズ郡教育委員会委託研究 “日本の枠組みから見た米国公立校の協調学習”（1999年6月）

#### III. 学会参加／Conference Presentations

1. 学会発表 “Role of sub-governmental processes in Japanese policymaking in education aid” 第43回北米比較・国際教育学会（1999年4月、トロント）
2. 分科会司会 Bureaucracy, Planning, and State Control in Japan, Pakistan, and Thailand 第43回北米比較・国際教育学会（1999年4月、トロント）

#### IV. 学会・研究団体等での役職／Professional Activities

1. メリーランド大学国際教育政策センター・コンサルタント
2. メリーランド州プリンス・ジョージズ郡教育委員会委託研究コンサルタント

## 小島 文英

### I. 研究活動／Research Activities

1. ミャンマー連邦における初等教育カリキュラム改訂
2. ミャンマー連邦における国際理解価値観教育の可能性

### II. 著作／Publications

#### iii) その他出版物／Other Publications

“A Proposal Review on the New Primary Curriculum of Myanmar”  
(Discussion Paper) April, 1999

### III. 学会参加／Conference Presentations

Asia-Pacific Conference on International Education: Searching New Education for  
Internatinal Understanding in Asia and Pacific (20-23 January, 1999 Tokyo)

### V. その他／Others

#### i) 講演／Lectures

1. “A Hint for the Implementation of Social Studies in Myanmar” Yankin Education  
College 22 November, 1998
2. “A Teacher's Role in the Implementation of the New Primary Curriculum” Education  
Workshop at University of Mandalay 17 May, 1999

## 原 和子

### I. 研究活動／Research Activities

東洋英和女学院別科（1934～1944設置）の卒業生は当時の帰国子女である。別科卒業生  
を対象にインタビュー追跡調査を行った。

### II. 研究論文／Research Articles

1. 「海外・帰国子女教育の一考察」－第二次世界大戦下の帰国子女学級「東洋英和女学  
院別科」の事例－ 「教育研究 32」1990年3月発行記載。



2. 「異文化体験のライフコース分析」－かつての帰国子女の追跡調査（第一部）－「教育研究 35」 1993 年
3. 「異文化体験のライフコース分析」－かつての帰国子女の追跡調査（第二部）－「教育研究 40」 1998 年

### III. 学会参加／Conference Presentations

第 19 回異文化間教育学会参加 1998 年 5 月 神田外語大学

## 斉藤 哲

### I. 研究活動／Research Activities

1. 母子間コミュニケーションの初期発達
2. 原初的音声知覚能力の発達
3. 言語発達

### III. 学会発表／Conference Presentations

1. 発達初期における育児語としてのオノマトペの研究 第 10 回日本発達心理学会 1999 年 3 月 於：大阪学院大学 ポスター発表（発表論文集、pp. 277）
1. ピッチ変化音に対する 4 ～ 8 ヶ月齢児の反応 第 63 回日本心理学会 1999 年 9 月 於：中京大学 ポスター発表（発表論文集、pp. 937）

## 上ノ原 太寿

### I. 研究活動／Research Activities

1. サイコセラピーにおける治療的变化について

### III. 学会参加／Conference Presentations

1. 日本心理臨床学会 第 17 回大会（参加 1998/9/18 － 21 名古屋大学）

2. 日本集団精神療法学会 第16回大会 (参加 1999/3/19 京都)
3. 国際力動的心理学療法研究会 第5回年次大会 (参加 1999/7/24-25 東京)

## 三河内(叶谷) 彰子

### I. 研究活動／Research Activities

マルチメディアを用いた学習に関する研究

1. Development: Celebrating the Moon, a multimedia educational material for science (Middle school and above). Usability test at middle school in Boston in the United States. May, 1999.

理解に基づいたカリキュラムに関する研究

2. Fieldwork Research: "Exploring Liquid." at a middle school in Boston in the United States with Anila Asgher (Harvard Graduate School of Education) supervised by Professor Eleanor Duckworth (Harvard Graduate School of Education) Feb. 1999-May 1999 (Unpublished Research Report: MIKOCHI KANAYA Akiko (1999) Exploring Viscosity.)

### V. その他／Others

1. Graduate Assistantship (educational technology specialist) at Boston University Graduate School of Education Sep.1998-Jul.1999
2. Project MEET Teacher Summer Institute. at Framingham State College July 26-30 1999. (Volunteer work as an educational technology specialist)  
<http://www.doe.mass.edu/edtech/teacher/projectmeet/summer.html>

## 山王丸 浩子

### I. 研究活動／Research Activities

マルチメディア教材を中心とした各種視聴覚教材の開発・利用

## II. 著作／Publications

### iii) その他／Others

1. 国際協力 AVE1 「沖縄国際センターの視聴覚技術研修コースについて」  
「視聴覚教育」第 53 巻 4 号 1999 年 pp. 50-51. (財) 日本視聴覚教育教会
2. 国際協力 AVE 4 「視聴覚メディアコースにおけるインターネット関連研修」  
「視聴覚教育」第 53 巻 7 号 1999 年 pp. 46-47. (財) 日本視聴覚教育教会

## III. 学会参加／Conference Presentation

「インターネットによる英語学習 (1) – 開発と利用の課題」

(中野照海 (国際基督教大学) ・三河内彰子 (国際基督教大学) と共同)

日本教育工学会第 14 回全国大会 (於北海道教育大学函館校) 1998 年 9 月 26、27 日 発表論文集 (pp. 367-368.)

## 朴 貞姫

### I. 研究活動／Research Activities

異文化間言語・教育・文化の対照研究

## II. 著作／Publications

### i) 研究論文／Research Articles

- ①中国朝鮮族中学校における日本語教育 1999. 5. 18
- ②指示語「こ、そ、あ」の日中韓 3 カ国語の対照 1999. 6. 29

### ii) 著書／Books

- 『日本の高等学校における韓国朝鮮語教育』(朝鮮語部分の翻訳を担当)  
財団法人国際文化フォーラム 1999. 6
- 『教科書の体様とその教育効果に関する外国調査報告』(韓国部分)  
財団法人教科書研究センター 1999. 7

## III. 学会参加／Conference Presentations

1. アジア太平洋地域国際理解教育会議に参加 1999. 1. 20 ~ 23
2. 高等学校韓国語教師研修会に参加 1999. 4

3. 平成 11 年日本語教育学会春季大会（麗沢大学）に参加 1999. 5. 22 ~ 23
4. 日中言語対照研究会第 2 回大会に参加 1999. 6. 6
5. 日本語学・日本語教育学研究国際シンポジウム（名古屋外大）に参加 1999. 6. 26

## V. その他/Others

### i) 講演/Lectures

「日本の学びたい点と改めてもらいたい点」

千葉県経営者協会奨学金応募作品一等賞を授けられる 1999. 6

### ii) 研究助成金（奨学金）/Research Grants

笹川平和財団中国留学生奨学金（1999 年 4 月～ 2000 年 3 月）

「空間場所の表現における日中韓 3 言語の対照研究」（修論）を全うするための研究助成金が必要ですが、助成機関が見つからなくて困っています。情報を教えていただけないでしょうか。

## 大川 多美子

### I. 研究活動/Research Activities

1. Campus Slang
2. Language teaching
3. Intercultural communication

### II. 著作/Publications

“ICU Campus Slang as an Antilanguage” ICU English Studies vol. 8, 1999 pp.43-49

## 研究室活動報告

### <教育哲学研究室／Department of Educational Philosophy>

#### 1. 人の動き

1999年3月 中須正 副手退任

1999年4月 牧内かおり 副手着任

#### 2. 研究活動

発表会 修士論文中間発表会 1998年12月7日(月)

1999年6月19日(土)

修士論文・卒業論文発表会 1999年2月10日(水)

教育セミナー 1999年8月2日(月)～4日(水)

#### 3. 博士後期課程副手の研究活動

高屋景一 教育思想史学会会員

教育哲学会会員

1998年10月17・18日大会参加 於 山梨大学

日本デューイ学会会員

1998年9月19・20日大会参加 於 和泉短期大学

発表：「想像力の教育」論とデューイ教育学説

Philosophy of Education Society 会員

The 55th Annual Meeting 参加 March 26-29, 1999.

At Hotel Monteleone, New Orleans, Louisiana, USA.

論文：

1. 「想像力の教育」論とデューイ教育学説

(日本デューイ学会紀要第40号)

2. プラグマティズムにおける「反省的指向」の論理

(『教育学年報』東京学芸大学教育学科 紀要第18号に掲載予定)

## <心理学研究室/Department of Educational Psychology>

### 1. 人の動き

#### (1) 学内人事

- 1999年3月31日 向井敦子講師、国際基督教大学を退職。  
山口麻夫、秋山朋子、梶山彩子、宮崎美里、非常勤副手を退任。
- 1999年4月1日 笹尾俊明助教授、準教授に就任。  
大井直子、非常勤助手に就任。  
大島なぎさ、非常勤副手に就任。  
大井直子、前田洋士、黒石憲洋、土居香央理、伊波夕子、前年度に引き続き非常勤副手に就任。

#### (2) 非常勤講師

- 1998年 秋学期 池田 央 (日本生涯学習総合研究所・立教大学名誉教授)  
「GEPS453 教育心理学演習II・測定と評価の諸問題」
- 1998年 冬学期 鳥居修晃 (聖心女子大学教授)  
「EPS352 知覚心理学」  
鹿島晴雄 (慶応義塾大学助教授)  
「GEPS580 教育心理学研究V・精神医学」  
宮下一博 (千葉大学助教授)  
「GEPS444 教育心理学研究VI・人格心理学の諸問題」
- 1999年 春学期 池田 央 (日本生涯学習総合研究所・立教大学名誉教授)  
「GEPS453 教育心理学演習II・測定と評価の諸問題」  
大伴 潔 (東京学芸大学助教授)  
「EPS322 発達心理学」

### 2. 研究活動

#### (1) 心理学講習会

- 1998年10月28日 心理学オープンレクチャー  
「Social Unity and Factors in Ethnic Group Harmony」  
～民族集団の調和をもたらす社会的統一性と諸要因～  
Michael Harris Bond, Ph.D.  
於 本館116号室
- 1998年10月29日 心理学フォーラム

「Social Interventions for Enhancing Inter-Ethnic Harmony」

～民族集団間の調和を促進する社会的介入～

Michael Harris Bond, Ph.D.

於 本館 315 号室

1999 年 4 月 27 日 心理学フォーラム

「Stress, Appraisal, Coping and Adaptational Outcomes With a Specific Focus on the Impact of Economic Crisis in Korea」

～韓国の経済危機にみるストレス、評価、コーピングと適応～

Uichol Kim, Ph.D.

於 本館351号室

## (2) 論文発表会

1999 年 1 月 26 日 修士論文発表会

(発表者 秋山朋子、黒石憲洋、宮崎美里、梶山彩子)

1999 年 2 月 11 日 卒業論文発表会 (発表者 29 名)

1999 年 5 月 25 日 6 月卒業生修士論文発表会 (発表者 上ノ原太寿)

## 3. その他

1999 年 3 月 2 日 非常勤講師慰労会 於 吉祥寺ボナペティアー

## <視聴覚教育研究室／Department of Audio-Visual Education>

### 1. 人の動き

1999 年 4 月：渡辺功、石川勝博、日野奈美が昨年に続き副手に就任した。

5 月：吉田広毅副手就任

### 2. 研究活動

#### (1) 日本視聴覚・放送教育学会、日本教育メディア学会

本研究室に事務局を置く日本視聴覚・放送教育学会第 5 回大会が東京情報大学において 1998 年 10 月 24 日から 25 日にかけて行われた。シンポジウム並びに課題研究は次のテーマで行われた。なお、日本視聴覚・放送教育学会は 25 日をもって「日本教育メディア学会」に改称された。

シンポジウム

- 1: 「私の視聴覚教育・情報教育」
- 2: 「日本の放送教育の国際的ノウハウとは何か：国際協力における技術移転とその課題」
- 3: 「大学における映像製作教育」

課題研究 1: 「インターネットの教育利用」

課題研究 2: 「マルチメディア時代における放送教育」

また、以下のテーマのもと研究会が開催された。

1998 年度第 2 回研究会：「メディアを用いた豊かな学習環境のデザイン」（関西大学）

同 第 3 回研究会：「総合的学習と視聴覚メディア」（金沢大学）

1999 年度第 1 回研究会：「視聴覚・放送教育の今後の方向を探る」（日本大学）

特別研究会： 「光通信ネットワークを活用した授業」（金沢大学附属小学校）

### 3. 博士後期課程副手の研究活動

渡辺 功

- (1) テレビ暴力番組視聴と子どもの非社会的行動に関する研究
- (2) マス・メディア接触における空想志向と現実志向によるアンビバレンスに関する研究

石川 勝博

- (1) マス・メディアの「利用と満足」に関する研究
- (2) メディア関連欲求に関する研究

## <英語教育研究室／Department of English Teaching>

### 1. 人の動き

ほぼ全員が語学科の副手に就任

1999年 3 月：3 名（博士前期課程）修了

1999年 4 月：3 名（内研究生 1 名）入学

1999年 6 月：2 名（博士前期課程 2 名）修了



## 2. 研究活動

- 1998年12月 修士論文中間発表会（発表者：佐藤理子、田所メアリー、太田かおり）
- 1999年4月 6月修了修士論文中間発表会（発表者：大館実子、岡村京子）
- 1999年4月 「ICU 英語研究」 Vol.8 発行
- 1999年7月26, 27日 第2回ICU言語研究会ワークショップ（主催：英語教育院生室）  
於：八王子大学セミナーハウス  
研究発表、修士論文発表、Prof. Randolph H. Thrasher (ICU) によるレクチャー

## 大学院教育学研究科修士論文

## &lt;教育哲学&gt;

1999年3月および6月卒業

- 村瀬 泰信 日本の高等教育の大衆化に伴う大学盛衰要因の変化  
—日本の高等教育の立地と学部名称を中心に—  
The Changing Institutional Factors in the Popularization of higher Education in Japan: Focusing on the Campus Location and the Names of Faculties of the Newly-established Universities
- 中須 正 タイ・日本における環境教育の比較研究  
A Comparative Study of Environmental Education in Thailand and Japan
- 吉田 美希子 Private Sector Participation in the Provision of Equivalency Programmes in Thailand  
タイ民間企業における equivalency programme（等価資格取得）

## &lt;教育心理学&gt;

- 秋山 朋子 青年期神経症者の集団精神療法における初期抵抗の構造と徹底操作  
The Structure and the Working Through of Resistance in the Beginning Phase of Group Psychotherapy for Neurotic Adolescents

- 黒石 憲洋 英語学習における学業成績および帰属、目標志向性、関与度、自尊感情の相互関連に関する時系列的研究  
A time sequential study on the interrelations among attribution, goal-orientation, relevance, self-esteem, and school performance in English learning
- 宮崎 美里 境界性人格障害患者の治療終結期における攻撃性の徹底操作に関するKernberg 理論の検討  
An Examination of the Kernberg's Theory on the Working Through of Aggression in the Terminal Phase of Treatment for the Borderline Personality Disorder
- 椛山 彩子 子どもの独立による移行の発達の意義について：  
中年期女性の親密性と世代性  
On the Developmental Significance of Postparental Transition:  
Intimacy and Generativity for Middle-Aged Women
- 上ノ原 太寿 自己駆進過程の仮説的理論構成：  
精神分析的システムズ理論による幼児の参加観察データの分析  
A Theoretical Model of Self-Propelled Process: An Analysis of a Participant Observation of a Toddler in a Perspective on Psychoanalytic Systems Theory
- <視聴覚教育法>**
- 日野 奈美 学習者の認知スタイルの相違と教師の助言の有無のハイパーメディア学習に及ぼす効果の実験的研究  
An Experimental Study of the Effects the Differences on the Learner's Cognitive Style and the Presence or Absence of the Teacher's Advice have on Learning through Hypermedia
- 鈴木 貴士 分数関数学習におけるコンピュータによるグラフ提示の効果に関する実験的研究

An Experimental Study of the Effect of Computer Presentation of Graphics  
in Learning of Fractional Function

<英語教育法>

- 田所 メアリー English through Drama:  
An Investigation of Global Foreign Accent  
ドラマを使った英語教育法  
—グローバル・アクセントの調査—
- 太田 かおり The Effect of Pedagogical Training on the Voice Onset Time and Vowel  
Length of Japanese EFL Speakers  
日本人英語話者に対するVOTと母音長に関する教育的効果の研究  
—コンピュータを利用した音響音声学的分析—
- 佐藤 理子 Image Metaphors in Second Language Acquisition:  
Inference or Interference.  
イメージメタファーと第二言語習得：  
推論か衝突か
- 岡村 京子 The Phonological Development of a Two-year-old Child in a Bilingual  
Japanese-English Setting  
日英バイリンガル環境における2歳児の音声学研究
- 大舘 実子 A Relevance Theoretic Account of Some Japanese and English Trans-  
lations of "The Tale of Genji"  
「源氏物語」の現代日本語訳および英語訳の関連性理論による分析

## 大学院教育学研究科博士論文

海後 宗男 テレビ報道の機能分析

—テレビ報道活動とその受け手に対する結果に関する実証的研究—

Television News and Functional Analysis-

An Empirical Study of the Relationship Between Television News

Activities and the Consequences Among the Audience-

## ICU 教育研究会活動報告

### ICU 教育セミナー 佐伯 孜 (3期・院 62) (都立日比谷高校)

第22回「ICU 教育セミナー」が下記の要領で行われた。折しも ICU 創立50周年行事として新図書館の建設をはじめとする諸計画がすすめられており、ホームカミングとしても良い機会となった。第1日目の夕食時の懇親会では、絹川学長の御挨拶があり、近未来の諸計画とそれを遂行するための卒業生の財政的助力の必要性を熱く語られた。

日 時：1999 年 8 月 2 日午前 10 時～4 日午後 16 時 30 分

場 所：ICU

参加者：65 名 (内 ICU 学部・院生計 15 名)

#### [第 1 日]

##### (1) 全体会①「カリキュラム改革」

講演：岩川直樹 (埼玉大学)

進行：山口和孝 (埼玉大学)

##### (2) 全体会②「カリキュラム改革—理科の視点から」

講演：滝川洋二 (ICU 高校)

進行：町田健一 (ICU)

##### (3) 全体会③「カリキュラム改革—英語の視点から」

講演：吉岡元子 (聖心女子大学)

進行：佐伯 孜 (都立日比谷高校)

## [第2日]

## (1) 分科会

## ① 「週5日制に伴う課題」

発題：安原 実（中野区立第十中学校）

## ② 「総合学習」

発題：重松 靖（小平市立上水中学校）・鈴木結花（ICU 2年）

## ④ 「生活指導の諸問題」

発題：平山陽子（浦和明の星女子高校）

## (2) 全体会④ 「カリキュラム改革－社会科の視点から」

講演：渡部 淳（ICU高校）

進行：増田素子（フェリス女学院中学高校）

## (3) 全体会⑤

進行：三橋洋二（埼玉県立大宮光陵高校）

## [第3日]

## (1) 全体会⑥ ICU 50周年記念講演(1) 「ICUいまむかし」

講演：千葉泉弘（ICU）

進行：立川 明（ICU）

## (2) 全体会⑦ ICU 50周年記念講演(2) 「ICUこれから」

講演：岡野昌雄（ICU）

進行：立川 明（ICU）

## (3) 総会

進行：吉田道郎（都立神代高校）

**教育実習報告**

## 1. 教育実習報告

1998年度には39名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

(1) 実習生総数 39名

男子 10名

女子 29名

## (2) 実習日程及び実習校

5月6日～5月19日	滋賀大学教育学部附属中学（滋賀）
5月18日～5月30日	宮城学院中学・高等学校（宮城）
5月18日～6月6日	茗溪学園中学・高等学校（茨城）
5月21日～6月5日	敬和学園高等学校（新潟）
5月25日～6月6日	筑波大学附属盲学校（東京）、富山県立富山中部高等学校
5月27日～6月7日	福岡教育大学附属小倉中学校（福岡）
5月28日～6月10日	基督教独立学園高等学校（山形）
6月1日～6月12日	三鷹市立第一中学校、三鷹市立第六中学校、共愛学園 高等学校（群馬）、松本深志高等学校（長野）、恵泉女 学園高等学校（東京）、東村山市立東村山第二中学校
6月1日～6月13日	国際基督教大学高等学校（東京）、成蹊中学校（東京）、 関西大学第一高等学校（大阪）、岡山県立岡山城東高 等学校、北浦三育中学校（茨城）
6月3日～6月16日	プール学院高等学校（大阪）
6月8日～6月19日	聖心女子学院（東京）
6月8日～6月20日	和光中学校（東京）、目黒区立東山中学校、小平市立 小平第四中学校、岐阜県立関高等学校、明治学院東 村山高等学校（東京）
6月11日～6月24日	星陵高等学校（石川）、東京都立日比谷高等学校
6月11日～6月26日	横浜共立学園中学校・高等学校
9月1日～9月14日	京都女子高等学校
9月28日～10月24日	早稲田大学高等学院（東京）
10月5日～10月17日	日高市立高麗中学校（埼玉）
10月12日～10月24日	自由学園高等科（東京）

## (3) 実習参加学生学科別内訳

学科	性別		
	男	女	計
人文科学科	0	3	3
社会科学科	2	2	4
理学科	4	2	6

語学科	3	7	10
教育学科	1	9	10
国際関係学科	0	4	4
教育学研究科	0	1	1
行政学研究科	0	0	0
理学研究科	0	0	0
比較文化研究科	0	0	0
科目等履修生	0	1	1
合 計	10	29	39

## (4) 実習生教科別内訳

学科	性別		計
	男	女	
社会	2	5	6
理科	3	1	4
数学	1	0	1
英語	4	23	27
宗 教	0	0	0
合 計	10	29	39

## 2. 教員免許状取得状況報告

1999年3月卒業生492名(学部456名、大学院36名)の内、一括申請により教員免許状を取得した学生は次のとおりである。

## (1) 教養学部学科別教員免許取得学生数(科目等履修生は除く)

学科	種別	取得者実数	種別	
			中一種	高一種
人文科学科		3	3	3
社会科学科		4	3	5
理学科		4	4	5

語学科	8	6	8
教育学科	7	8	7
国際関係学科	3	2	3
合計	29	26	31

## (2) 教養学部教科別教員免許状取得学生数 (科目等履修生は除く)

学科	教科種別		社会	地理・歴史	公民	数学		理科		英語		宗教	
	中一	高一				中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一
人文科学科										3	3		
社会科学科			1	1	2					2	2		
理学科						2	2	2	3				
語学科										6	8		
教育学科			3	1	1					5	5		
国際関係学科					1					2	2		

## (3) 大学院教員免許状取得者数

研究科	専攻科	種別		中一	高一	中専	高専
		中一	高一				
教育学研究科	教育哲学専攻						
	教育心理学専攻						
	英語教育専攻					1	1
	視聴覚教育専攻						
行政学研究科	行政学専攻						
比較文化研究科	比較文化専攻	1					
理学研究科	基礎理学専攻						